

むらさきに出会えてよかった！

だいだいのくみ　☺☺　☺☺

☺は年中でむらさきに転園するまで、上の子と一緒に別の保育園に通っていました。そこは、園庭はあれど遊具のほとんどない園で、「もっとダイナミックに遊ばせてあげたい」と私はいつも思っていました。上の子の小学校入学をきっかけに、思い切ってむらさき幼稚園へ。バス通園は☺の憧れ。初めての場所に不安もあったかと思うのですが、ほとんど物おじすることもなく、すんなりとバスに乗っていき、☺の「むらさきライフ」はスタートしました。

保育園時代には、どちらかといえば「○○にいやなことされた」などネガティブな話でお友達の名前を聞くことが多かったのですが、むらさきの毎日では早速に仲良くなったお友達の名前が会話にいっぱい！たまに園に行くと「☺！」と呼ばれ仲間に入れてもらっている様子が見られ、お友達にも受け入れられているんだなととても安心しました。異年齢のお友達の名前も次々に出てくるのもうれしい誤算。いつも「□□って誰？」とたじたじの私でしたが、色々な関わり合いの中で刺激を受け合い、素敵な環境だなと思いました。

目論見通り（？）、遊具も自由自在に楽しんでいる様子。すぐに土の塊の様になってしまう靴や、穴が開くズボン、お下がりにできないほど汚れるTシャツ。劇的に変貌した衣類の様子から、☺の「大満喫」を感じました。帰宅後はお茶漬けだけを何とか食べ、18時前には寝てしまうほど遊びきってくる毎日。その満足そうな姿に、いつも「本当にむらさきさんに転園してよかった」と思いました。

また、毎月先生が書いてくださる「○月の☺☺☺☺☺くん」には感激でした。保育園では、その日あったことを"組単位"で知るだけですが、むらさきの☺レポートからは、☺の日々の様子が本当にイキイキと読み取れます。先生方がとてもよく☺個人のことを見てくださっているのが伝わってき、一緒に☺の成長を見守ってくださっているんだな、と強く感じました。

あまり細かいことを気にしない☺ですが、それでも繊細なところもあり。年長になって訪れた「お泊り保育」は、☺の「脅威」でした。最初にお泊り保育の話が出たとき、☺は「絶対行かない」と言っていました。よくわからなくて不安だったのでしょう。なので私は、お泊り保育前日まで、意図的にその話題を伏せていました。最悪、行かなくてもしょうがないかなとさえ思っていました。☺には☺の思いがあり、お泊り保育が楽しいであろうことも、とてもいい経験になることも、見通しのきく親が押し付け、説得することではないように思ったのです。それでも前日、「じゃあ、準備しよっか！」と「行くに決まってますよね～」なていで誘ってみると、「なんか、旅行みたいだね」と少し調子が出てきて、必要なものを一緒に一つひとつ詰めていくと、「楽しみになってきた」とつぶやいてくれました。当日は、それまでの日々の繊細な沈黙はなんだったのか、ノリノリで出かけて行ってくれました。少し目の下に隈を作って（ハードな睡眠環境を後で聞いて笑い転げました）、でもとても誇らしげに園から出てきた☺の顔は、今でも忘れられません。

年長の中盤あたりから、「☺☺（妹）の気持ちもわかるで、でもな」と妹の気持ちに寄り添った物言いができたり、忘れ物をしないように自分で前日から準備していたり、代表さんに立候補したりと、☺の良心や積極的な心の動きが伝わってくるような行動が増えてきました。特に何か言い含めたわけでもないのに。そんな時、☺の「自分で育っていく力」のようなものを見た気がして、感動します。それは、むらさきでのお友達や先生方との関わり合いの中で、☺が獲得した何かが、実を結んでいる瞬間だと思うからです。2年間、ほぼ毎日「幼稚園行きたい！」な子だった☺。小学校入学が近づく今、もっとむらさきにいさせてあげられたらいいのに、と日々思っています。むらさき幼稚園、ありがとうございます。☺はむらさきに来れてよかったなと、最初から最後まで思い続けています。

